

# 連想方略と記憶の保存性 —概念地図法を参考にして—

○ 皆川 順 (山陽学園短期大学)

伴 浩美 (長岡技術科学大学)

## 問題と目的

皆川 (2013) は概念地図法 (concept mapping) に関連して、学生の認知構造を見るために連想課題を施行した。連想の方略は A4 の用紙に連想語を描かせることを通じて判断した。

この時、連想方略は、並列連想 (\* 特定の概念からいくつかの連想が並列的に出現するもの)、イメージ連想 (\* 概念からイメージ化して連想が進むもの)、階層的連想 (\* 概念地図のように、概念が階層的に連想が進むもの)、連鎖連想 (\* 特定の語彙から連鎖的に連想が進むもの) に区分された。実際にはほとんどの連想は混合型ではあったが、その中で最も連想語の多い方法をそのタイプとした。この実験においては『心理学、学習、条件づけ』を刺激語として連想語を反応語としたが、当該単元に対するテスト成績は、階層的連想群が最も優れ、並列連想群がそれに続いた。

今回はその後再び同様な連想課題を行い、記憶がどのように残存しているかについて検討した。

## 方法

**実験参加者** 岡山県私立 X 短期大学学生 64 名。男子 3 名、女子 61 名。ただし連想不可能なデータ、無関係な語のみを書いたデータは集計から除外した。実験は、講義の一部として行われた。

## 日時

平成 25 年 12 月。第一実験から 4 ヶ月後。

## 指示

まず用紙に学籍番号、氏名を記入しなさい。次に『心理学、学習、条件づけ』という 3 つの言葉をから連想する言葉を、配布された A4 の白紙に自由に書きなさい。この 3 つの言葉は用紙のどこに書いても構いません。制限時間は 30 分とします。はい! と言ったら始めてください。やめ、と言ったら鉛筆を置いて下さい。それから回収します。

## 結果

前回の実験及び今回の実験結果はそれぞれ Figure 1, Figure 2 のとおりである。

なお前回の結果では並列 7 名、イメージ 18 名、階層的 9 名、連鎖 10 名であったが今回はそれぞれ 5 名、14 名、9 名、8 名であった。いずれもその他は連想不能群と見なされ集計から除外された。

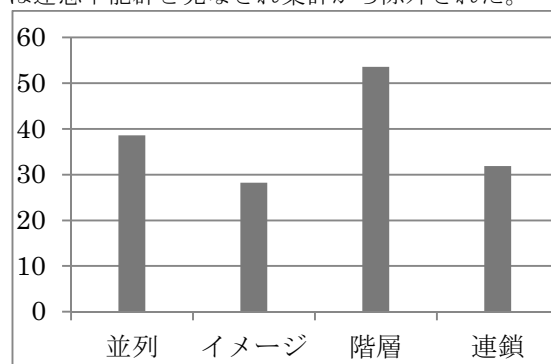


Figure 1 前回の各群の「心理学」得点結果

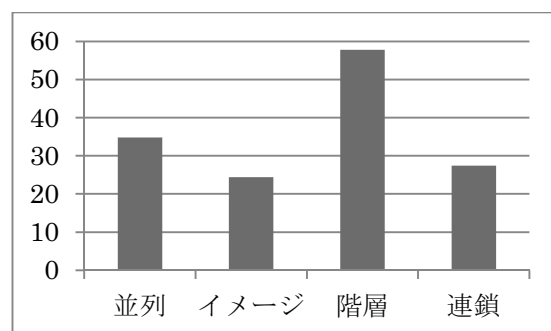


Figure 2 今回 (4 ヶ月後) の各群の得点

今回の結果は  $F(3, 32)=13.18, p<.001$  で有意であった。Tukey 法による多重比較によれば、階層的連想群の学業成績は他のすべての群よりもすぐれていた ( $p<.01$ , ただし並列連想群とは  $p<.05$ )。

## 考察

結果は予想通り、階層的方法を採用した群が最も優れたが、前回は並列連想群と有意差が無く、今回も  $p<.05$  に留まった。このことから並列連想方略もある程度、知識保存に効果的である可能性が窺われる。